

施政方針説明要旨



3月定例会

令和6年（2024年）2月26日

令和6年3月定例会において、令和5年度補正予算案および令和6年度予算案ならびにこれに関連する諸議案を提出し、ご審議いただくにあたり、私の市政運営に関する所信を申し上げます。

まずは、元日に発生しました能登半島地震においてお亡くなりになられた方々に心からお悔やみ申し上げますとともに、被災されたすべての方々にお見舞いを申し上げます。

市民の生命・財産を守る基礎自治体の責務を果たすべく、危機管理を徹底するとともに、被災地がいち早く復旧し、元気を取り戻せるよう、引き続き支援を継続してまいります。

本年は、市長として2期目の任期の折り返し地点となります。市政運営の基本理念である「創る改革」をより一層加速させ、豊中のさらなる発展・成長のため、全身全霊で職責を果たしてまいります。

今、社会は大きな変革の渦中にあります。

その一例として生成AIが急速に普及し、進化を続けています。現在、その利活用が進む一方、同時にリスクについて様々な議論、検証も行われています。この新たなテクノロジーは、近い将来、私たちの暮らしや仕事に大きな影響を与

え、社会を一変させる可能性があります。

また、我々を取り巻く経済情勢は、雇用・所得環境が改善する中、各種政策の効果等により景気の回復が続くことが期待される一方で、世界的な金融引き締めに伴う影響など海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスク要因となっており、予断を許しません。

世界に目を向けると、ロシアによるウクライナ侵攻、深刻さを増すパレスチナ情勢は、いずれも終結の出口がみえず、混迷を極めています。

かつて福澤諭吉は、「進まざる者は必ず退き、退かざる者は必ず進む、進まず退かずして瀦滞(ちよたい)する者はあるべからざるの理なり。」と説きました。

変化のスピードが速い社会において、変化しないことはリスクとなります。私は、新たな技術や考え方を組織の中に積極的に取り込みながら、自ら変革をリードし、より良い未来を市民のみなさんとともに築いていく所存です。

このためには、組織や地域の基盤強化が必要です。

まず、多様な交流は、新たな価値を創造する源泉となりま

す。この素晴らしいまちを未来につなげていくため、私自身が先頭にたって様々な主体との交流・連携を進めてまいります。

昨年を振り返りますと、アメリカ サンマテオ市との姉妹都市提携60周年を迎えました。10月には40名の訪問団をお迎えし、少年野球の親善試合やレッドウッドの植樹式などを開催し、両市の友好関係をさらに深めることができました。アモーレンス・リー市長とは、子ども政策、住宅政策について意見交換を行い、課題感を共有し、異なる背景や文化を超えて、両市をさらに深く結びつけ、ともに前進していくことを約束しました。

また、医療的ケアが必要な方への支援に熱い思いをもつ自治体首長とともに全国的なネットワークを立ち上げたほか、全国の様々な自治体、企業、団体等と新たに連携協定を締結するなど、連携・協力体制を築いてまいりました。

兄弟都市・沖縄市とは、先人たちが紡いできた友好と信頼の絆をより固いものとし、次世代につなげてまいります。

次に、「市民力」「地域力」です。これらは持続可能な豊中を創り上げていくための礎となるものです。

去年は4年ぶりに産業フェアを開催したほか、地域においても「まちを良くしたい」と願う多くの方々の熱い想いと努力により、多くのイベントが本格的に再開されました。私もさまざまな地域行事に参加しましたが、大学生などの若い世代の参加が増え、地域に大きなエネルギーをもたらしていました。地域への愛着を深め、本市の誇りである「市民力」「地域力」をさらに高めるよう取組みを進めます。

また、本市にゆかりのある方々が輝かしい活躍をされています。

名誉市民である松本孝弘さんは、昨年B'z結成35周年を迎え、5年ぶりに全国ツアーを開催され、そのパワフルな音楽で多くの人を魅了し続けています。松本さんからは、去年も「生まれ育った豊中の文化芸術振興に役立ててほしい」とのメッセージとともに、私財をご寄附いただきました。

箕面自由学園チアリーダー部の皆さんは、8月の日本選手権大会で中学校部門、高等学校部門でダブル優勝されました。さらに、中学は世界選手権大会で世界一の栄冠に輝かれ、高校は、まさに本日、日本の高校初となるアメリカでのNBAのハーフタイムショーに出演されます。

長年にわたるたゆまぬ努力の積み重ねをもとに、世界的に華々しい活躍を続ける姿は、豊中の誇りであり、市民に勇気や感動を与えてくれます。豊中にゆかりのある方々の活躍を、一緒に応援してまいりましょう。

我が国の総人口は、少子高齢化に伴い減少の一途をたどっていますが、本市の人口は微減傾向にとどまっています。

今年度の市民意識調査では「豊中市に住み続けたい」と回答した割合は86.6%と、非常に高い水準となっており、住み続けたいまちとして評価されています。

こうした評価は、豊中の発展・成長に尽力してきた先人たちのたゆまぬ努力の上に築かれたものです。私は現状に安住することなく、市民のみなさん一人ひとりが幸せを実感できるよう、市民起点・現場起点でのまちづくりを一層進め、先人から受け継いだ財産をより良いものとし、次世代に引き継いでまいります。

令和6年度予算編成においては、“住み続けたい・住んでみたい”まちの実現に向けて、未来への投資を持続的に行うべく重点化を進め、市民サービスの質の向上、さらには、まちの新

たな価値の創造につなげることを基本とし、地域活性化・発展の戦略として「こども政策の充実・強化」を重点政策に位置付け取組みを進めていくこととしました。

子どもたちは、豊中の未来を担う大切な宝です。「子育てしやすさNO.1」を実現するためには、保護者だけでなく、地域社会全体で子育てを行う「子育ての社会化」を実現させなければなりません。

このため、令和6年度予算案においては、子ども・教育分野に対前年度比52億8,224万5千円、9.6%の大幅増となる大胆な配分をしています。

子どもが小学校に入学する際に、保護者が仕事と家庭の両立に困難さを感じる、いわゆる『「小1の壁」の解消』に向けた取組みを進めます。

また、府内NO.1の教育DX（デジタル・トランスフォーメーション）や「学びの多様化学校」の設置など個別最適化された学びの環境づくりを進めるとともに、子どもたちが安心して学べるよう、洋式トイレや空調設備の整備など学校施設の改善に取り組めます。

さらに、はぐくみセンターと令和7年度に開設する児童相談所を両輪とした「中核市とよなか」ならではの支援体制を築くとともに、支援サービスを量的にも拡大し、子ども子育てをまるとして支援してまいります。

あわせて、子育て世代が住み慣れた地域で、「ずっと住み続けたいと思える環境づくり」を進めてまいります。

困りごとを抱えた方に、迅速に漏れなく支援を届けられるよう、包括的な支援体制を強化します。

人生百年時代。介護人材をしっかりと確保できるよう事業者を支援する新たな仕組みを構築します。

また、豊かでゆとりある生活空間、投資や人材を呼び込む都市空間として、公園や地域の核となる駅周辺エリアを戦略的に活用し、誰もが住み心地のよいまちづくりを進めます。

さらに、地域経済に新たな活力をもたらし、持続的な成長につなげるため、新たな視点で企業立地を促進します。

これらの取組みを進めるにあたっては、「デジタルの徹底的な活用」を行います。

一人ひとりに寄り添い、個々のニーズに細やかに応えるため、

必要な情報を必要な方へ届ける個別のプッシュ型通知をはじめ、子ども・教育・まちづくりなどあらゆる行政分野においてデジタル活用を展開し、デジタルの恩恵をまち全体に波及させてまいります。

市政の運営にあたっては、平和主義、民主主義、基本的人権の尊重という憲法の理念や自治基本条例の原則にのっとり、柔軟な発想と行動力、都市経営の視点をもって力強く進めてまいります。

以上の施策を含めた令和6年度の予算規模としましては、

一 般 会 計	1, 8 4 4 億	2, 3 9 1 万 8 千 円
特 別 会 計	9 4 0 億	7, 9 8 1 万 2 千 円
病 院 事 業 会 計	2 6 5 億	7, 4 7 0 万 4 千 円
水 道 事 業 会 計	1 2 7 億	1 4 7 万 5 千 円
公 共 下 水 道 事 業 会 計	2 1 2 億	9, 1 4 8 万 1 千 円
合 計	3, 3 9 0 億	7, 1 3 9 万 0 千 円

で、前年度予算と比べまして、全会計では2.8%増、一般会計では6.1%増となっております。

それでは、基本政策の6つの柱にそって、主な内容につきまして、順次ご説明を申し上げます。

子育て・教育〔健やかに育ち、楽しく学ぶことができるまち とよなか〕

まず、「健やかに育ち、楽しく学ぶことができるまち とよなか」です。

「子育てしやすさNO.1」で掲げた3つの柱にもとづき、取り組みを進めてまいります。

柱の1つめ、保護者の皆さんの様々な働き方に対応できるよう「小1の壁」の解消に全力で取り組みます。

小学校では、こども園等の預かり開始と同じ7時開門とし、朝の見守り体制を整えるとともに、放課後こどもクラブにおいて、日曜・祝日の預かりを始めます。また、子どもたちが放課後こどもクラブで多様な経験を得ることができるよう、英語やプログラミングなどの習い事機能を順次導入します。

次に、2つめの柱、「教育の質・機会をハイレベルに」の取り組みです。

まず、教育に関する保護者の負担を軽減し、誰一人取り残さない教育を実現するため、今年度から無償化した修学旅行

に加え、各教科のドリルなどの副教材や工作材料にかかる費用等、学びの水準に影響を与える保護者負担費を無償化します。

そして、子ども一人ひとりの個性や学習状況に応じた質の高い教育を提供するため、府内NO.1の教育DXをめざします。具体的には、学校や家庭学習で個人の理解度に応じて出題されるAIドリルを導入するとともに、各種教育データを一元化し、表やグラフで見える化する教育ダッシュボードを構築します。また、新たに小学校5、6年生を対象に、放課後の学習支援を実施します。

加えて、これまで本市が力を入れてきた不登校児童・生徒への支援に学習面の充実強化を図るため、学校に通うことができない子どもたちが、特色あるカリキュラムや環境で安心して学ぶことができる「学びの多様化学校」の設置に向けて取組みを進めてまいります。

次に3つめの柱「子ども・子育てをまるごと支援」です。「中核市とよなか」ならではの支援体制で子ども、子育てを確実に支援してまいります。

産後の心身不安を和らげるため、産後ケアサービスの受け入れ枠を拡大するとともに、安全性をより高めるため乳児を見守るスタッフの配置を支援するなど産後ケアサービスを質・量ともに拡充します。

子育て世帯が身近に頼れる環境をつくるため、地域のこども園等で育児相談や園庭開放、イベントの開催などを行う「マイ子育てひろば」をすべての小学校区へ順次展開し、妊娠中や子育て中の方が安心して子育てできるようにします。

新たに南部地域での病児保育の開設に向け、取り組むとともに、保護者のリフレッシュでも利用できる一時保育については、オンライン上で予約ができるシステムの導入を進めます。

きょうだいが同時入所しやすくなるよう、こども園等の入所選考を見直します。

一方、多胎児家庭やヤングケアラーについては、「子育ての社会化」を進める中で、寄り添って支援をしてまいります。

具体的には、支援を要する家庭を徹底サポートするため、訪問家事・育児支援の量を大幅に拡大します。

また、ひとり親家庭への相談体制の充実や、子どもの健やかな成長につなげるため、親子の交流を支援します。

より身近なところで、誰でも参加できるように、子ども食堂や無料・低額の学習支援などの子どもの居場所づくりをすべての小学校区で展開します。特に厳しい家庭環境にあって、相談、支援が必要な子どものための居場所として児童育成支援拠点を拡大します。また、より緻密に子どもを支えるために、地域とともに作る居場所として本市独自の「豊中型認定居場所」を新たに整備し、はぐくみセンターを中心とした包括的な相談支援ネットワークを構築します。

不登校などの高校生世代の子どもたちが安心して過ごせる場を提供し、社会的自立に向け、就学や就職につながるプログラムを実施し、ひきこもりの未然防止に取り組みます。

「子育てしやすさNO.1」に掲げた取組みに加え、子どもたちの学びを充実させる環境づくりを進めていきます。

(仮称) 庄内よつば学園については令和8年度開校に向けて、引き続き整備を進めます。また、上野小学校の建替えを

進めるなど、老朽化した学校施設の計画的な改修に取り組みます。

児童生徒が安全安心かつ快適に学校生活が過ごせ、災害時の避難所における快適性を向上させるため、建替や廃校予定の学校を除き、令和7年度までにすべての学校体育館に空調設備と、電気やガスが止まった場合も使用可能な非常用発電機の設置に取り組みます。

老朽化が進む学校プール施設について、維持管理経費削減、水泳指導環境確保等のため、民間プール施設を活用した水泳指導を順次進めます。

多世代が集い、学び、まちづくりの一翼を担う図書館をさらに進化させます。

中央図書館整備の第一優先候補地として曾根駅前の東側用地を選定しました。開館に向けて関係者との協議を進めてまいります。

また、螢池図書館については、次代の地域交流拠点として若者向けの自学自習スペースを設けるとともに、親子の居場

所機能等を付加し、令和7年4月にリニューアルオープンします。

災害・感染症対策〔安全、安心に暮らせるまち とよなか〕

次に、「安全、安心に暮らせるまち とよなか」です。

来年1月で阪神・淡路大震災から30年となります。また、皆さんとともに乗り切ったコロナ禍は、3年の長期に及びました。その教訓と経験を土台として、これまで災害・感染症対策で培った知見をもとに、危機事象への対応力をさらに高め市民の安全・安心な暮らしを実現します。

危機管理体制の強化としては、災害や防災に関する情報伝達を目的とした防災行政無線の更新に向け設計を行います。

また、災害対応力を高めるため、デジタル技術を活用し、被害情報をリアルタイムに収集、地図上に集約するとともに、避難所における避難者情報の管理及び災害対策本部との情報共有を効率的に行うなど、防災DXを推進します。

庄内・豊南町地区における「地震時等に著しく危険な密集市街地」の解消に向けて、除却費補助制度を見直し、延焼危険性が高い区域については、補助率を100%に引き上げ

て、効果的な箇所へ重点的に配分します。

救急・消防については、いよいよ、近隣5市での指令業務の共同運用を始めるとともに、増加している救急需要に対応するため、救急隊を増強します。

あわせて、大規模災害時に被害状況を迅速に把握し、救助捜索活動を行うため、災害対応ドローン隊「K I T E」（カイト）の運用を開始します。導入するドローンは道路橋や水管橋を安全かつ効率的に点検するなど、災害時以外にも活用します。

上下水道事業については、計画的に施設の改築更新・長寿命化、浸水対策等を進めます。また、安全・安心で、持続可能な事業運営を進めるため、水道料金及び下水道使用料の改定を行います。

病院事業については、豊中病院が高度先進医療を身近に提供できる医療機関であり続けることが必要です。

その中で、病院が持つ施設・設備・人員などの限られた医療資源を最大限活用するため、病床を再編し、手術件数・が

ん外来化学療法 of 拡充など、急性期医療を中心とした専門的な医療の提供に注力します。

まちづくり〔選んでもらえるまち とよなか〕

次に、「選んでもらえるまち とよなか」です。

住んでみたいまち、住み続けたいまちとして選び続けていただけのよう、地域の特性を活かしたまちづくりをより一層進めてまいります。

南部地域については、旧島田小学校跡地の産業利用の公募が始まりました。地域に根差した南部ならではの魅力をつくり、愛着を持って住む人の増加につなげるため、引き続き、市有施設の有効活用に向けた取組みを進めます。

神崎川駅周辺整備については、神崎川の水辺を活かし、多様な人々が集い、安心して暮らせるまちづくりの実現に向けて、事業化の検討を進めます。

服部天神駅では、令和7年度の完成をめざし、地域の顔となる駅前広場の整備に引き続き取り組めます。

千里中央地区については、北大阪をリードし続ける都市拠点をめざして、駅周辺の再整備に向けて官民協働で取り組みます。

豊中駅、岡町駅周辺では、魅力ある都市拠点の形成をめざし、地域のまちづくり活動を支援するとともに、豊中駅前再整備構想の具体化に向けて引き続き地元協議を進めます。

緑地公園駅周辺から曾根駅周辺、大阪国際空港周辺までの東西軸では、新たなまちの魅力スポットである原田緑地について、令和7年度からの一部供用開始に向けて、整備を進めるとともに、音楽やアートイベントなどを開催し、まちのにぎわいを創出します。また、交通利便性をより向上させるため、東西線バスの大型化に向け、取り組みを進めます。

ゼロカーボンシティの実現に向けて、クリーンランドで発電した電気の一部を学校や市役所庁舎等で使う、電気の地産地消事業の取り組みを進めます。また、市有施設に市民の皆さんが利用できるEV充電器を設置し、市内の電気自動車の普及を促進します。

健康・共生〔いきいきと暮らせるまち とよなか〕

次に、「いきいきと暮らせるまち とよなか」です。

市民の皆さん一人ひとりの多様性に応えるトータルサポートの実現により誰もが生涯生きがいをもって、住み慣れたまちで暮らし続けられるまちづくりを進めます。

本市がこれまでも力を入れてきた相談支援体制をさらに強化すべく、複合的な課題を抱える方の情報・課題をデータで共有し、一元的・包括的に行政と民間相談機関とが一丸となって支援を行うための地域包括ケア総合システムを構築します。

とりわけ、女性支援については、様々な課題を抱える女性を確実に支援するため、支援計画の作成や伴走型支援等を行う総合的な相談支援体制を拡充します。

そして、年々高まる在宅医療ニーズに確実に応える体制を引き続き整備してまいります。

医師会と協働して、在宅医療の連携拠点を担い、医療、介護、福祉関係者による会議の開催、情報共有の促進を図ると

ともに、在宅医療における医療グループ体制や市内各病院との連携を強化します。

一方で、介護人材の不足は深刻です。介護の需要増に対応し、多様なサービスを維持するため、事業者が主体的に行う介護人材の確保、定着を目的とした事業に対する新たな補助制度を創設します。

地域コミュニティの活性化については、地域コミュニティ拠点施設の再整備プランに基づき、地域の皆さんが集い、交流する場である地域活動拠点の充実に向けて取組みを進めます。

魅力活力・躍進〔魅力と活力あふれるまち とよなか〕

次に、「魅力と活力あふれるまち とよなか」です。

今年は、兄弟都市提携50周年を迎える沖縄市と、若い世代の新たな取組みにつながるよう、市民の皆さんとともに記念事業を実施します。

5月には、文化芸術センターにおいて、B' zの松本孝弘さ

んのライブにあわせて、高校生やファンなどと一緒に、松本さんの応援イベントを開催するなど、「音楽あふれるまち豊中」を市内外に発信してまいります。

2025大阪・関西万博に向けては、メタバースを活用した機運醸成や北摂地域7市3町で連携した広域事業により、国内外へ本市の魅力を発信します。

大規模改修中のローズ球場は、さらに施設の機能を高めるとともに、高校野球発祥の地・豊中をアピールする展示スペースを新設し、12月にリニューアルオープンします。

産業振興については、マチカネポイントのチャージポイント5%に加えて、決済ポイントとして20%を還元します。また、企業立地については、奨励金などの支援制度の商業地への適用拡大を検討し、市内経済の活性化につなげます。

変革〔持続的で豊かなまち とよなか〕

最後に、「持続的で豊かなまち とよなか」です。

市民の皆さんの豊かな市民生活を実現するため、多様な主体

との連携や、あらゆる場面におけるデジタルの活用により、地域課題を解決し、市民サービスの向上を図ります。

100%を達成した行政手続きのオンライン化に続いて、一人ひとりの状況に応じたサービスを追求してまいります。子ども関連サービス等について個別にプッシュ型通知を行うなど、サービスの利便性を向上させます。

公民学の連携については、民間企業等の専門的な技術やノウハウを持つ副業・兼業人材を活用するほか、多様な企業や大学等との連携を進めることにより、課題解決や市民サービスの質の向上、さらには、まちの新たな価値の創造につなげてまいります。

広報戦略については、市民の共感を得られる広報を推進します。具体的には、外部専門人材を活用した新たな視点での情報発信をはじめ、様々なオンライン手続きへスムーズに誘導するなど、わかりやすい市ホームページへのリニューアル、アウトリーチ型での広聴などに取り組みます。

人材戦略については、政策推進に必要な人材確保に取り組むとともに、引き続き昇格基準の見直し、外部組織との交流、キャリア形成支援など、これまでの取組みを発展・強化させ、職員のエンゲージメントを高めます。

財源の創出にあたっては、積極的な政策展開を行うために、既存の事務事業の見直しを進めるとともに、市有地の不動産証券化などの新たな手法に加え、引き続き、市有財産の有効活用、企業版ふるさと納税など民間企業と連携した財源創出にも取り組みます。

以上、極めて概括的ではありますが、基本政策にそって内容を説明させていただきました。

本日、ご提案いたしました予算案およびその他の諸議案につきまして、関係職員からご説明申し上げますので、よろしくご審議いただきますようお願い申し上げます。